

令和7年度第1回介護保険事業計画等推進委員会・地域密着型サービス運営に関する委員会・地域包括支援センター運営協議会 議事録 (要旨)

1. 日時 令和7年8月21日(木) 午後2時～

2. 場所 太子町立生涯学習センター 研修室1・2

3. 出席者

(出席委員)

筒井孝則、西田いく子、高山暁美、谷内啓雄、伊藤勝美、岡崎要、羽山茂男、岩田誠、梅川亜矢子、伊庭登美子、摺木きみ子

(欠席委員)

水本孝后、金谷和美、坂本はるみ

(オブザーバー)

澤井里江

(事務局)

辻本福祉介護課長、川村課長補佐、植木主査、田村いきいき健康課長、福田副主査

4. 筒井会長挨拶

高齢化が進む中、地域包括ケアシステムの進展や介護人材の確保がますます重要となっており、私たちは新たな課題に立ち向かうべき時代を迎えています。地域における介護サービスの提供は、単に生活を維持するだけでなく、住民一人ひとりが安心して暮らせる環境を実現するための鍵となります。その実現には、介護事業所の現場で日々尽力されている方々の努力と地域全体の協力が不可欠であり、地域の実情に合わせて地域で知恵を出し合うことが重要と考えております。皆様それぞれに専門的な視点でのご意見をいただきたいと思います。本日の案件は、令和6年度の介護保険決算状況に関わる報告、地域密着型サービスの運営に関する報告、並びに地域包括支援センターの運営に関する報告などになっております。皆様の率直なご意見を賜りますようお願い申し上げまして、私の挨拶とさせていただきます。

5. 議事

- (1) 介護保険事業計画等推進委員会関係
 - ・令和6年度介護保険事業の決算等について
- (2) 地域密着型サービスの運営に関する委員会関係
 - ・地域密着型サービスについて
- (3) 地域包括支援センターの運営協議会関係
 - ・地域包括支援センターの運営状況等について
- (4) その他

6. 質疑応答

(西田委員)

第9期計画は3年間の計画ですが、その初年度にあたる令和6年度の決算は、当初の計画通りに進んでいるという認識でよろしいでしょうか。

(辻本福祉介護課長)

はい。第9期計画の策定当初から、基金の取り崩しは予定しておりました。令和6年度の決算と当初計画を比較しますと、保険給付費の伸びが想定していたよりも若干緩やかでしたが、概ね想定内の決算状況でございました。

(西田委員)

介護保険料について伺います。このままの状況で推移した場合、次の第10期計画では保険料が上がるという認識でいるべきでしょうか。

(辻本福祉介護課長)

現時点では、特別な対策を講じなければ、保険料は上昇することが想定されます。理由としましては、利用者数そのものが増加することに加え、人件費等の高騰を背景に介護報酬の単価も上昇傾向にあるためです。国も事業の効率化や利用者負担の見直しといった議論を進めているようですが、詳細についてはまだ何も決まっていない状況です。第10期計画の策定に向け、今年度の後半から国の方針が示されてくるかと考えております。

(伊藤委員)

資料3の裏面にある要支援認定者の状況について、令和5年度から6年度にかけて要支援2の人数が増え、要支援1が減っています。これは状態が改善した方

が増えたという解釈でよろしいのでしょうか。

（田村いきいき健康課長）

要支援2の方が重度となりますので、軽度の方が減り、重度の方が増えているという形になります。ただ、要支援認定者数の総数としては、この数年間ほぼ横ばいで、急激な増加は見られておりません。個別の要因分析まではできておりませんが、全体の傾向としてはそのような状況です。

（高山委員）

大阪府の介護予防活動強化推進事業について伺います。3ヶ月間の短期集中予防サービスを終えた後、参加者はどのような活動に移行し、運動等を継続されているのでしょうか。

（福田副主査）

3ヶ月間のプログラムを終えた方の多くは、「元気ぐんぐんトレーニング」につながっています。これは町内24箇所の集会所などで週に1回、顔なじみの方々と一緒に体操などを行う、住民主体の通いの場です。

（高山委員）

短期集中予防サービスの参加人数は増えているのでしょうか。

（福田副主査）

送迎の定員の都合もあり、現在は1クール9名を定員として実施させていただいております。プログラム終了後、全員が通いの場等に参加されるわけではありませんが、半分弱くらいの方が何らかの地域の活動につながっています。また、ご自宅での家事などの活動量が増え、生活機能が改善したという事例も多く報告されています。

（伊庭委員）

高齢者の移動手段について、意見があります。町内には「生き生きトレーニング」のような素晴らしい取り組みがありますが、そこへ行くための移動手段が課題となっている方が多くいらっしゃいます。公共交通のバスではカバーしきれない地域もあり、自力で移動できない方は参加を諦めてしまいがちです。閉じこもりを防ぐためにも、もう少しきめ細やかな移動支援が必要ではないでしょうか。

（辻本福祉介護課長）

ご指摘ありがとうございます。町内全体の移動手段という点では、公共交通のあり方について担当課が定期的に会議を開き、検討を進めております。ご意見いただいたような、福祉的な視点に立った移動サービス、例えば社会福祉協議会が

実施している移送サービスなどを、地域の中でどのように増やしていくかということは、私どもも継続して取り組むべき重要な課題であると認識しております。

（伊庭委員）

プラスワンサービスや寿喜菜の会など、中々予約が取れないと伺っています。電動車いすは基本的に要介護2以上でないと借りることができませんが、要介護2の方で電動車いすを自走できるような状態像の人は少ないと思われます。要介護度の制限の解除などを検討していただけたらと思います。

7. その他

- ・ 太子町高齢者保健福祉計画・第10期介護保険事業計画の策定に向けたアンケート調査の実施について

8. 閉会